



分科会 6 薬剤師の生涯学習元年—更なる自己研鑽へ JPALS

10月7日(日) 15:00～17:30 第8会場(オークラアクトシティホテル浜松 3F チェルシー I)

W-06-01

基調講演 薬剤師生涯学習の充実による我が国の医療の発展のために

な かい きよひと
中井 清人

厚生労働省医薬食品局総務課

薬剤師の活躍によって、日本の薬物療法を向上させるためには、現場からの情報発信が極めて重要であると感じます。これは、薬剤師に関する各種規制や制度も含めた我が国の医療に係る制度の制定プロセスにおいて、情報公開の流れや、具体的に誰が何をできるのか、また、そのための費用も含めて、明確なエビデンスが求められることに起因します。

我が国よりも薬剤師の職能が広いといわれている米国薬剤師の状況を見てみますと、米国の医療が市場原理に基づく、競争社会の中におかれながらも、薬剤師がその存在意義を示しています。これは、米国薬剤師会のパンフレットにおいても明確に示されていて、その中に、薬剤師の臨床活動が患者ケアの向上にどのように影響を与えたのか、また、医療費の削減にどのような影響を与えたかについて、明確なエビデンスが示されています。

我が国においても、我が国の医療制度、文化に則したエビデンスが必要ではないでしょうか。そして、それを明確に外部に向かって、堂々と主張すべきではないでしょうか。つまり、医療現場から明確なエビデンスを持った主張が我が国の医療を変えていく大きな原動力の一つであります。

そして、医療現場からの発信を進めるために極めて重要なことの一つが生涯学習の充実です。ご自身が関与されている領域について、広く深く学び、エキスパートになっていただきたいと思えます。

しかしながら、益々、高度化・複雑化する医療においては、最先端の知識を得るだけでは不十分であることも事実です。医療をより最適化するためには、医療現場における試行錯誤、つまり、絶えず問題点を見つけ、それを解決していくことが求められます。

私は、医療現場において問題解決能力が身につくような生涯学習を計画して実行していただき、医療現場で見つけられた問題を解決することが一つのエビデンスとなり、それを発信していただけることを期待したいと思います。そして、それらの先駆性と実行力を持った薬剤師の先生の成功例を目にした他のやる気のある薬剤師の先生がそれを真似し、若しくは改良し、さらに情報を発信することにより、やる気のある薬剤師の方々の活躍が広がっていくことを期待します。私もそのために精一杯努力したいと思います。